

5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4
5

方房形氣
廿五編上下

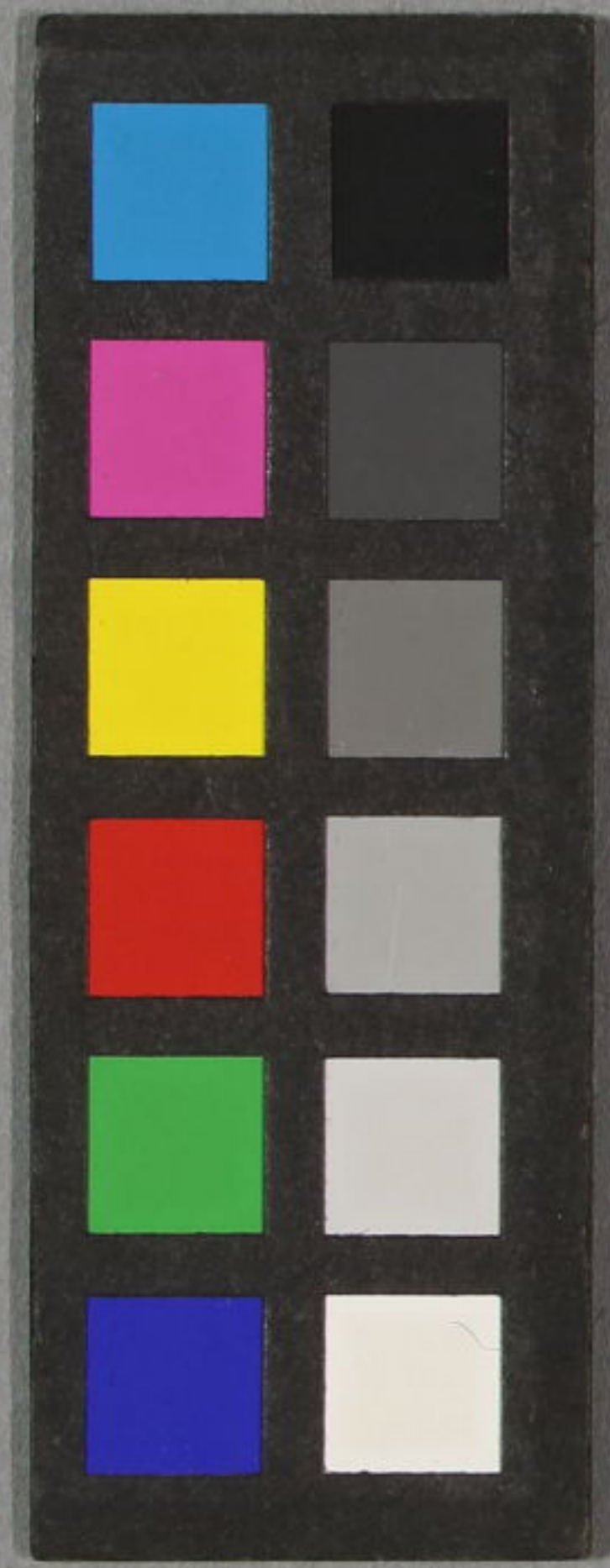
京山翁作
國貞畫圖

平彩畫
錦摺書
委棟



樂

^ 13
3703
25



鶴亭秀賀作
梅蝶樓國貞画



下

教草女房形氣廿五編



上

大錦堂
壽梓

門 へ13
號 3703
卷 25

○教州女房形氣

廿五篇
結局

廿六編 浮雲屋

御披露 富田三

是の此度世に
珍敷世の次第
其頃専ら賣行一は

一書みええたる中往昔のことに

ちん兄弟姉妹の二夫婦有るが

其心大い賢愚

の違ひ有て亦

貧福ふ差別あり

内心の
於夜叉

下あて次へ



一

女房廿五

歡喜天

女房七五



○老母
おぬ

○黄金屋
奈久四郎
為助と
改む



○女房
お雪



行跡の善悪雪とみめりの

おのりめ

炭の如く一世の盛衰

寂面白して喜怒哀

樂の人情細まれば

教草とも成る

事の多れば實説

と其終拍出一つ又入御眼

前も替りてうらんと思へ

御求御覧のよしと

俗に敷も次編の

御披露旁此編

清三郎

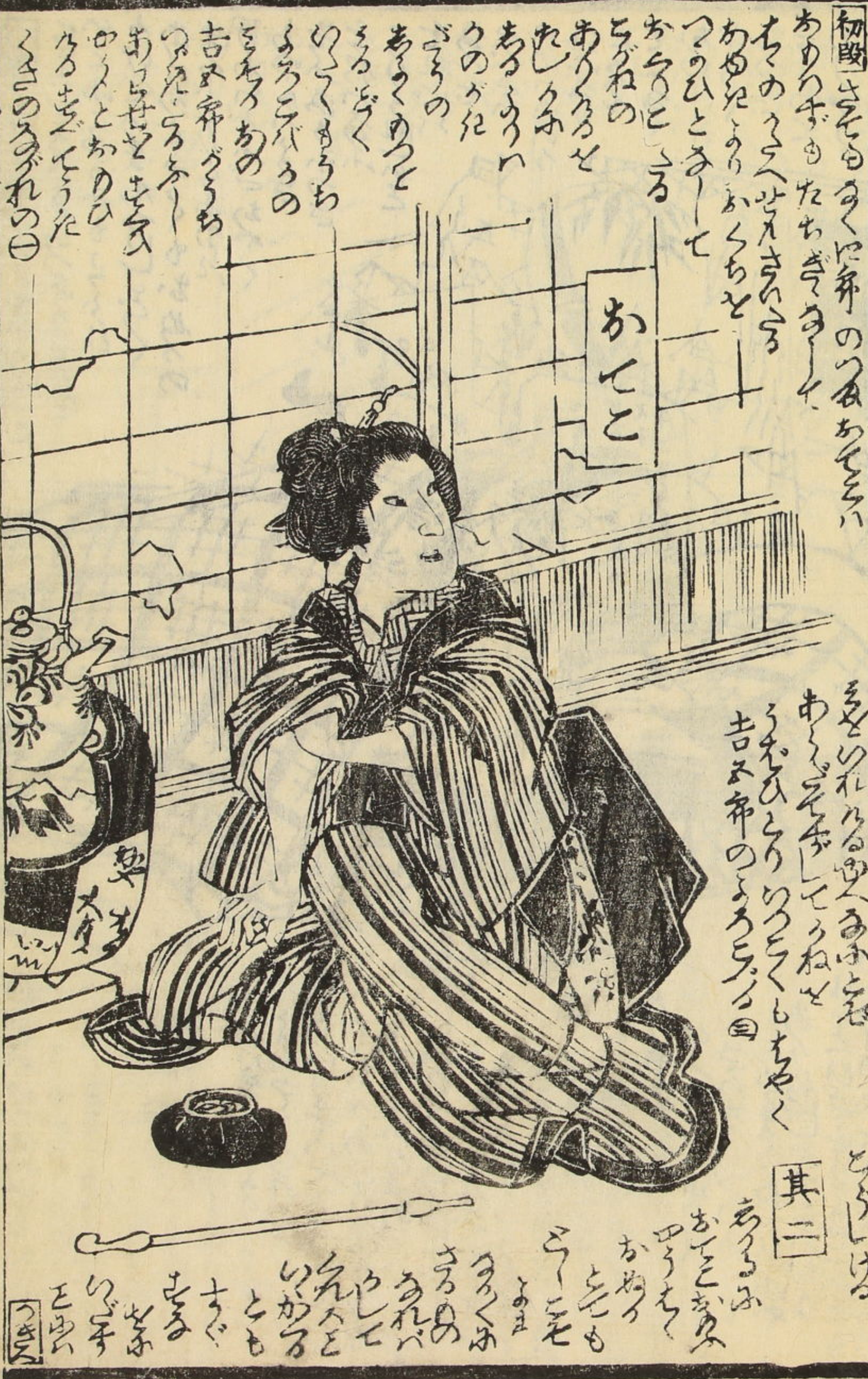
五川屋

赤口此用も青

鶴亭

香乃賀述

女房形氣廿五編上の巻



初編は自由多くは并のつな

あゆみ入せ入る

つひとさして

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

とをい

あつと

あつと

其二

あつと



徳

おぬう

玉の助

てとちくもそろう
 ぐんまう
 夏トキ
 まうあてん



かてこ

① あつねのくめんをきき
 せうくのありどりのやうなるもの
 さえせんごんとあつねのあつね
 二枚をうらもせうのまてか
 ちれまへたふふふ

② おぬういあん
 ちうふおごうと
 のどむねさで
 あつねとあつねのあつね
 ちうふおごうと
 のどむねさで
 あつねとあつねのあつね

③ のどむねさで
 あつねとあつねのあつね
 ちうふおごうと
 のどむねさで
 あつねとあつねのあつね

かてこ

かてこ

玉の助



あてこ

おてこ

あてこ

おてこ

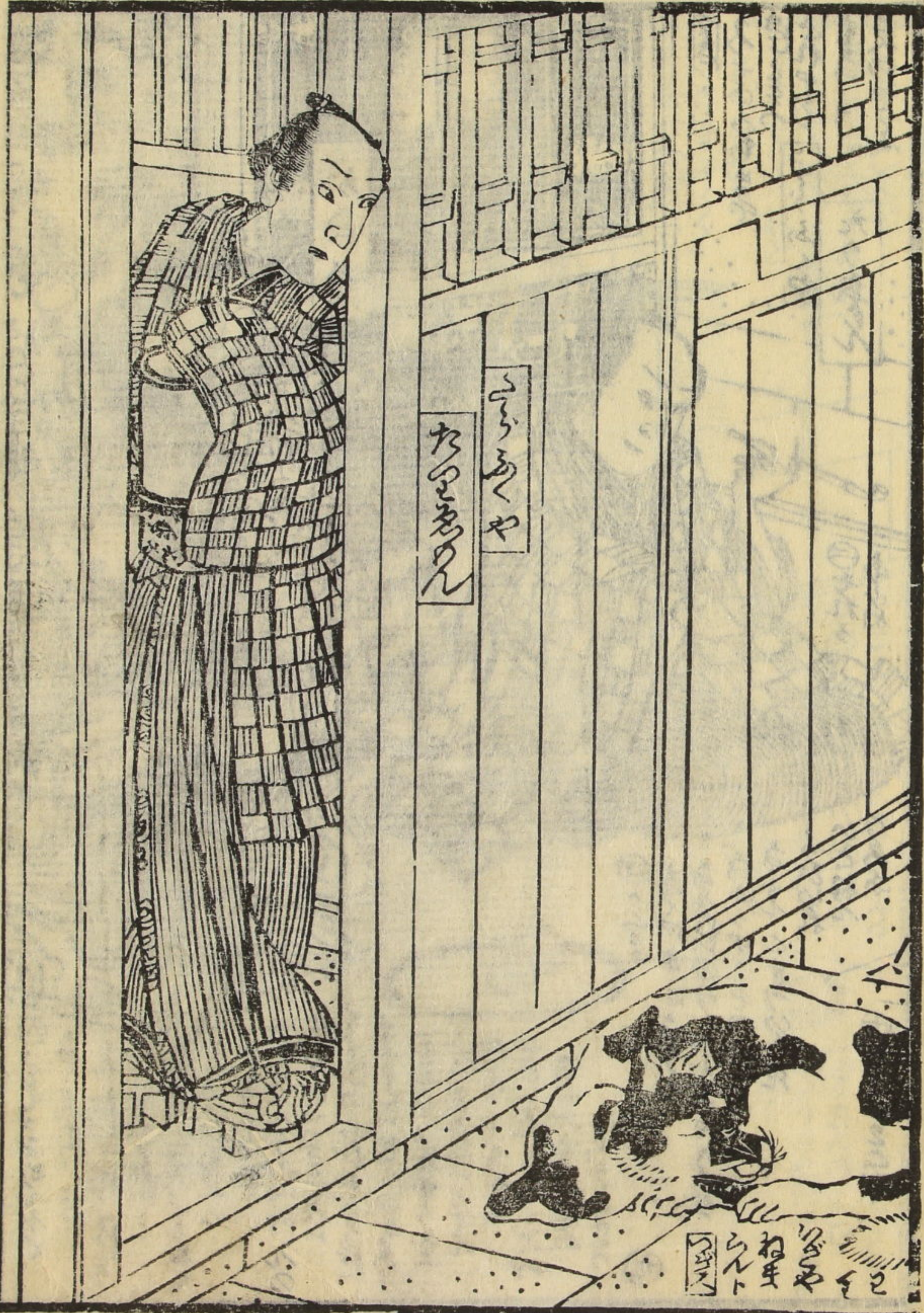


玉の助

さき四郎

玉の助

あてこ



ちく四郎

おまへ
おん
おん

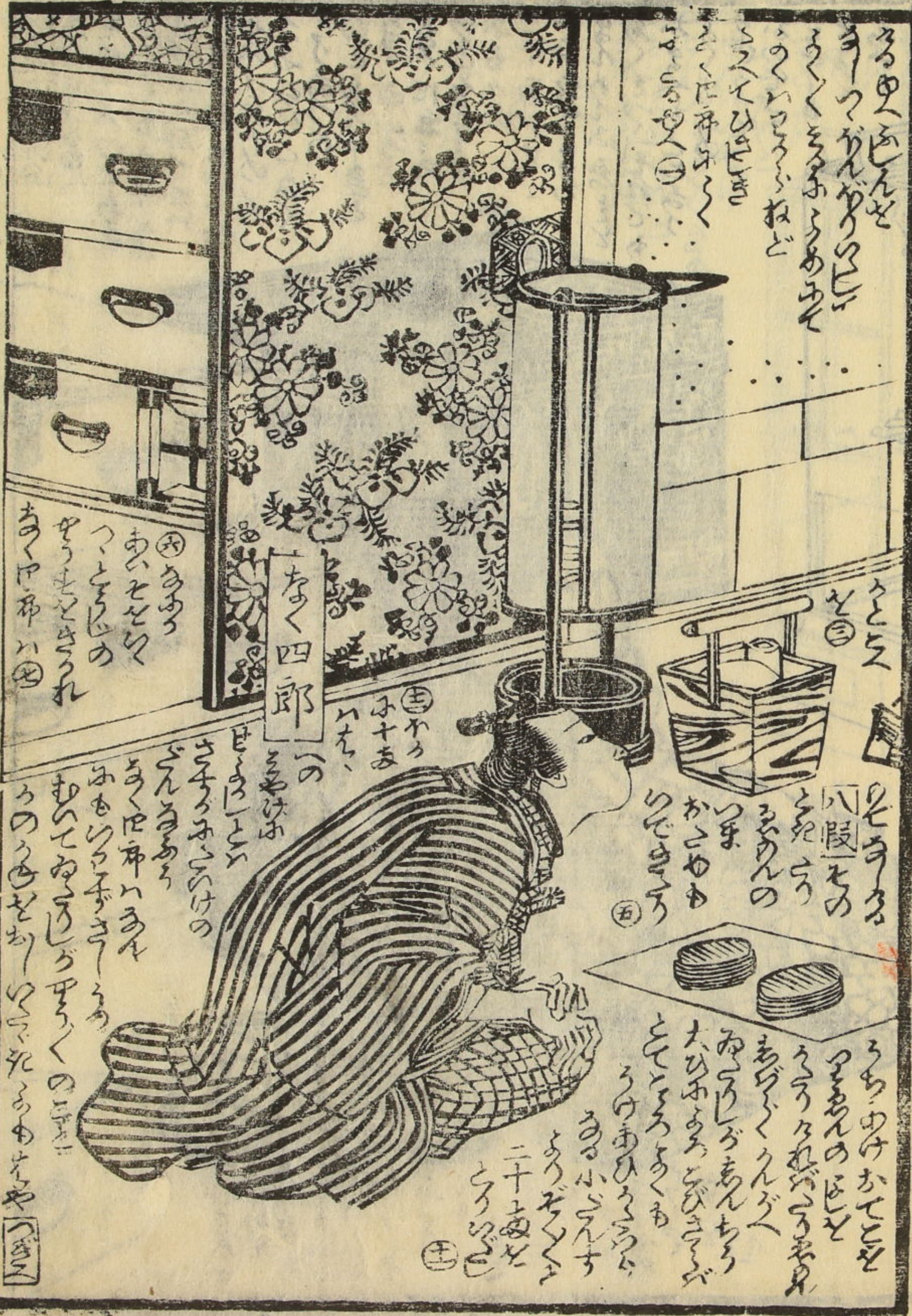


ちく四郎

おまへは...
おん...
おん...

おまへは...
おん...
おん...

おまへは...
おん...
おん...



ちく四郎

あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

ちく四郎

あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

ちく四郎
あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

ちく四郎
あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

ちく四郎
あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎



かこめ

あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

あつちゅう
あつちゅう
つとむじめ
やうせとさうれ
ちく四郎

あつちゅう

あつちゅう

あつちゅう



吉五郎

あてこ

①うあめであくのむ
 のまじりてそれより五六日めあつた

あてこ
 のまじり
 のまじり

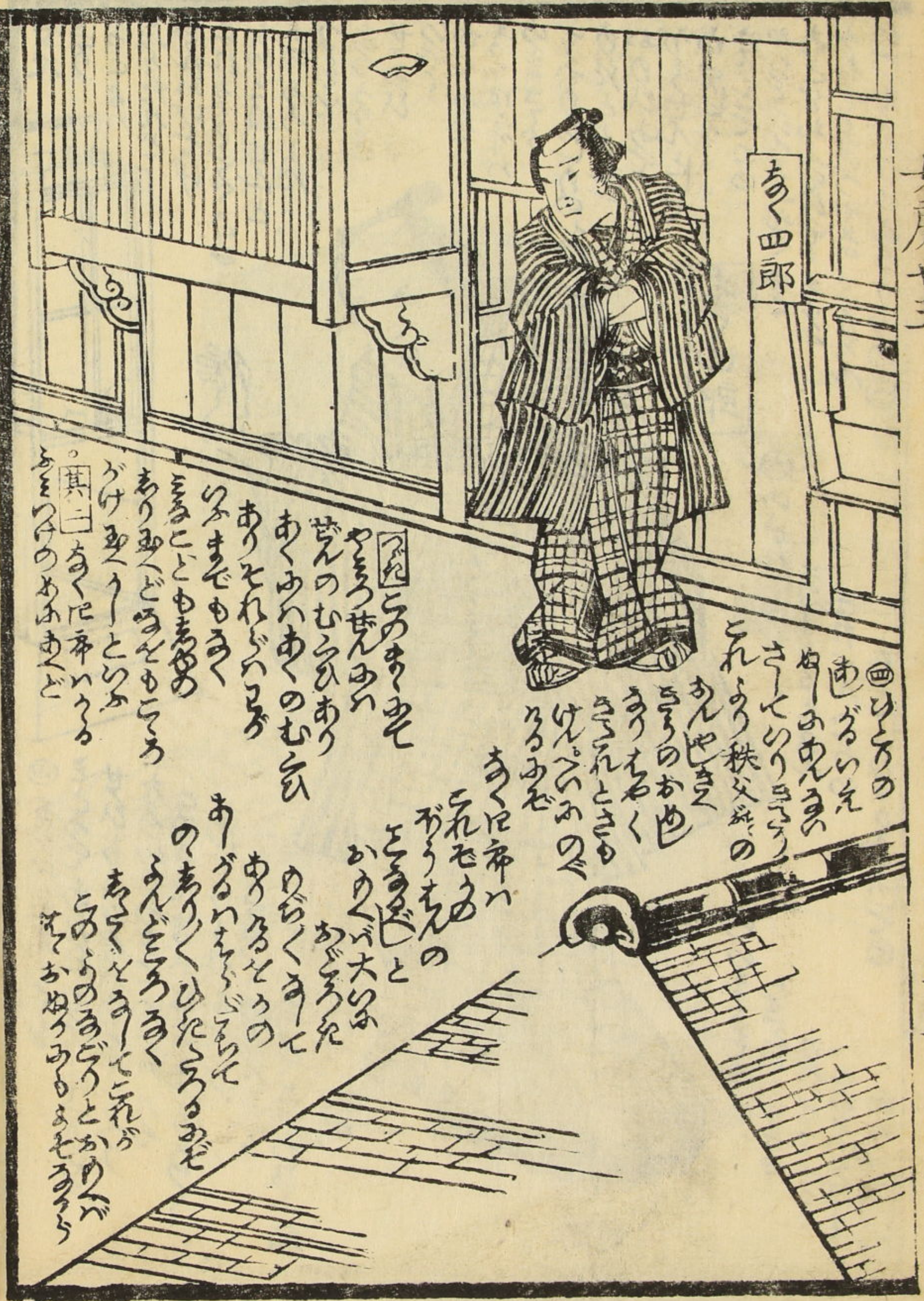
いぬいあつたさあはげふ
 あまをうあつたあまの
 ひふあつた

ども

あつたあ
 のまじり
 のまじり

女房七五

十六



あく四郎

女房七五

あつたあ
 のまじり
 のまじり

あつたあ
 のまじり
 のまじり

あつたあ
 のまじり
 のまじり



① だまき
ねいせ
のて
えいも
ある
らちあて
りたて
やえうう

② うくと
ちあぬ
みくろ
なるあせ

④ ちぬい
あたこと

⑤ ちぬい
あたこと

⑥ つひふ
めあれぬ
千あたを
山のてんか
つあぢん
これもふくれも
このことろぶら

あつちも⑤



⑦ あるふ
そのよ
ちあぬ
あんやき
うろの
五万あ
なを
あつちも
せま
あつちも
あつちも
あつちも

⑧ ちぬい
あたこと

のき助

⑨ つれき
きん
あつちも

⑩ やまの
あつちも

⑪ ちぬい
あたこと

⑫ ちぬい
あたこと

七五

東京書林

馬喰町四丁目

吉田屋文三郎板

